



ゴールドラット博士の TOC (23) (チェンジ・ザ・ルールの再読)

いかにルールを変化させていくか

3 月①のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2025 年 3 月 1 日(土)

チェンジ・ザ・ルール、コンピュータシステムの真のパワーとは何か？これを用いればどのような限界から脱出することができるのか？

ゴールドラット博士は、第一作「ザ・ゴール」で生産現場における<ボトルネック>、第二作の「ザ・ゴール 2」では<思考のプロセス>、そして第三作目となる「チェンジ・ザ・ルール」では、いかにルールを変化させていくことが組織の改善にとって重要なことを論じている。原作のタイトルは(Necessary But Not Sufficient 必要だが充分ではない)(中国語訳では**仍然不足够**)である。この 3 冊(日、英、中)を 3 ヶ月に渡って再読してみたい。

コンピュータシステムを導入したとしても、それに対応するポリシーやルールが古いままでは、充分そのメリットが活かされない。

今日の企業活動にとってテクノロジーが不可欠であることは異論のないところである。しかし、AI を導入して業務が向上したり、企業活動が一元把握できたとしても、それで利益が増えなければ、真の改善とは言えない。

なぜ、出せるはずの利益が出ないのか。

AI を導入して利益を飛躍的に伸ばした企業、組織はあるのか。

AI への投資を絶対必要、または必要悪として考えているのか。

企業経営において、テクノロジーや AI は、本来、組織の活性化、または利益の増加などのパフォーマンスの向上を図るために用いられるべきである。システムや AI の真のパワーとは何か？これによってどのような限界が取り除かれるのか？これまでの限界に対応していた古いルールとは何か？どのように新しいルールを用いればいいのか？

一体何のための AI なのか、そんな問いである。

組織、通常の日常業務、とは変化を嫌がるものである。これは事実であり、これまで慣れ親しんできたやり方、ポリシーを変えるのはそう容易なことではない。

こういう古いものの制約は多々存在し、これらを取り除いていかなければ、真の改善を図ることは困難である。

いったいどのように対応したらいいのか。その手がかりとなってくれるのが「チェンジ・ザ・ルール」である。